

三鷹市美術ギャラリー 収蔵作品展 IV

後期：2023年7月15日(土)～8月20日(日)

会場：三鷹市美術ギャラリー 主催：三鷹市美術ギャラリー・(公財)三鷹市スポーツと文化財団

出品リスト

作品番号	作家名	作品名	イメージ寸法 縦×横(×奥行)	制作年	技法/材質	エディション
1	高松次郎	(不明)	303×225mm	1960年	水彩/紙	
2	高松次郎	(不明)	351×351mm	1960年	水彩/紙	
3	高松次郎	(不明)	366×366mm	1960年	水彩/紙	
4	高松次郎	(不明)	375×359mm	1960年	水彩/紙	
5	高松次郎	(不明)	372×370mm	1960年	水彩/紙	
6	高松次郎	(不明)	391×367mm	1960年	水彩/紙	
7	高松次郎	(不明)	435×354mm	1960年	水彩/紙	
8	高松次郎	(不明)	450×395mm	1960年	水彩/紙	
9	高松次郎	(不明)	545×388mm	1960年	水彩、ニス/紙	
10	高松次郎	(不明)	540×392mm	1960年	水彩/紙	
11	高松次郎	不安な英雄	420×385mm	1960年10月	水彩、墨/紙	
12	高松次郎	花の招き 1	430×360mm	1960年	水彩/紙	
13	高松次郎	花の招き 2	505×349mm	1960年	水彩、ニス/紙	
14	高松次郎	誕生	494×370mm	1960年	水彩/紙	
15	高松次郎	点 No.13	410×317×15mm	1963年	紐、ラッカー、油彩、釘/板	
16	高松次郎	遠近法の箱	480×715mm	1967年	シルクスクリーン/紙	52/100
17	高松次郎	遠近法のベンチ	580×765mm	1967年	シルクスクリーン/紙	10/100
18	高松次郎	遠近法のマラソン	503×745mm	1967年	シルクスクリーン/紙	14/100
19	高松次郎	波1 No.229	810×650mm	1968年	アクリル/木パネル	
20	高松次郎	波2 No.230	810×650mm	1968年	アクリル/木パネル	
21	高松次郎	Graphic No.4	343×235mm	1969年	シルクスクリーン/紙	24/50
22	高松次郎	日本語の文字	728×525mm	1970年	オフセット/紙	36/100
23	高松次郎	英語の単語	790×545mm	1970年	オフセット/紙	82/100
24	高松次郎	カンヴァスの複合体	735×410mm	1972年	油彩/カンヴァス	
25	高松次郎	カンヴァスの複合体 #968	446×273mm	1972年	油彩/カンヴァス	
26	高松次郎	カンヴァスの複合体 #969	272×446mm	1972年	油彩/カンヴァス	
27	高松次郎	カンヴァスの複合体 #970	606×1023mm	1972年	油彩/カンヴァス	
28	高松次郎	カンヴァスの複合体 #971	606×1015mm	1972年	油彩/カンヴァス	
29	高松次郎	波の柱 No.1276	910×260×260mm	1975年	アルミニウム	
30	高松次郎	釘の影	330×240mm	1976年	釘、鉛筆/板	
31	高松次郎	平面上の空間 No.1041	1620×1300mm	1982年	油彩/カンヴァス	
32	高松次郎	平面上の空間 No.1045-b	1620×1120mm	1982年	油彩/カンヴァス	
33	高松次郎	女の影 No.1102	727×606mm	1984年	油彩/カンヴァス	
	高松次郎	「國生み(古事記、日本書紀より)」		1984年	シルクスクリーン/紙	A.P. 10/15
34		がらんどろがあった	305×425mm			
35		雲の波、そして天の浮橋	305×430mm			
36		火の誕生	313×439mm			
37		ヤマタノオロチ	305×430mm			
38		うちはひろびろそとはきゅうくつ	305×430mm			
39		わだつみのいるこのみや	308×425mm			
40		ある日火の山のふもとの若者に一首の歌 がとどく	300×420mm			
	高松次郎	「水仙月の四日(宮沢賢治作より)」		1984年	シルクスクリーン/紙	
41		空に舞う雪の化生たち	435×628mm			8/95
42		日暮れを待たず雪婆んごがやってきた	435×625mm			9/95
43		赤毛布の少年を封じこめる吹雪	438×634mm			8/95
44		雪は夜じゅう降って降って降ったのです	435×625mm			8/95
45	高松次郎	形 No.1143	728×607mm	1985年	油彩/カンヴァス	
46	高松次郎	形 No.1145	607×728mm	1985年	油彩/カンヴァス	
47	高松次郎	形 No.1204	1620×1300mm	1987年	油彩/カンヴァス	
48-52	高松次郎	「アンドロメダ Aシリーズ」 1-5	610×450mm	1989年	シルクスクリーン/紙	31/98
53	高松次郎	形 No.1273	1620×1300mm	1990年	油彩/カンヴァス	
54	高松次郎	形 No.1341「飛翔」	1620×1300mm	1992年	油彩/カンヴァス	

作品番号	作家名	作品名	イメージ寸法 縦×横(×奥行)	制作年	技法/材質	エディション
55	高松次郎	形 No.1375 「はばたく永遠」	970×1620mm	1995年	油彩/カンヴァス	
56	高松次郎	はばたく永遠	650×1030mm	1995年	グワッシュ、マーカー/紙	
57	高松次郎資料	アトリエ黒板	913×1800×88mm			
58	高松次郎資料	アトリエ壁板、床板	497×165×15mm、519×90×13mm			
67	田中田鶴子	漁村風景	245×333mm	1957年	水彩/紙	
68	田中田鶴子	たからもの	181×260mm	1960年頃	油彩/カンヴァス	
69	田中田鶴子	変ぼう	224×275mm	1960年頃	油彩/カンヴァス	
70	田中田鶴子	日本	1165×915mm	制作年不詳	油彩/カンヴァス	
71	田中田鶴子	(不明)	727×906mm	制作年不詳	油彩/カンヴァス	
72	田中田鶴子	点	180×260mm	1969年	油彩/カンヴァス	
73	田中田鶴子	時間と空間 I	910×1170mm	制作年不詳	アクリル/カンヴァス	
74	田中田鶴子	時間と空間 II	910×1170mm	制作年不詳	アクリル/カンヴァス	
75	田中田鶴子	円と線	910×1170mm	制作年不詳	アクリル/カンヴァス	
76	田中田鶴子	(不明)	336×530mm	制作年不詳	アクリル、ペン、紙/カンヴァス	
77	田中田鶴子	(不明)	240×330mm	制作年不詳	アクリル/板	
78	田中田鶴子	(不明)	300×300mm	2002年	アクリル/板	
79	田中田鶴子	有限	372×323mm	2003年	アクリル/紙	
80	田中田鶴子	相態形態	267×365mm	2003年	アクリル/紙	
81	田中田鶴子	無門空間	323×409mm	2003年	アクリル/紙	
82	田中田鶴子	点在色空	305×409mm	2003年	アクリル/紙	
83	田中田鶴子	見解(けんげ)	215×275mm	2003年	アクリル/紙	
84	田中田鶴子	迷妄	215×309mm	2003年	アクリル/紙	
85	田中田鶴子	色彩公案	272×242mm	2003年	アクリル/色紙	
86	田中田鶴子	形態金	283×217mm	2003年	アクリル/紙	
87	田中田鶴子	色彩行動	193×533mm	2003年	アクリル/紙	
88	田中田鶴子	裏に向い外に向う	320×499mm	2003年	アクリル/紙	
89	田中田鶴子	無限	267×383mm	2003年	アクリル/紙	
90	田中田鶴子	(不明)	430×409mm	2002年	墨、アクリル/紙	
91-92	田中田鶴子	(不明)	480×390mm、485×368mm	2003年	墨、アクリル/紙	
93-94	田中田鶴子	(不明)	195×250mm、455×385mm	2004年	墨、アクリル/紙	
95-100	田中田鶴子	(不明)	407×323mm~473×542mm	2005年	墨、アクリル/紙	
101-113	田中田鶴子	(不明)	327×290mm~531×453mm	2006年	墨、アクリル/紙、色紙	
114-131	田中田鶴子	(不明)	257×238mm~530×455mm	2007年	墨、アクリル/紙	
132-138	田中田鶴子	(不明)	284×164mm~510×401mm	2007年頃	墨、アクリル/紙	
139-216	田中田鶴子	(不明)	277×159mm~475×540mm	制作年不詳	墨、アクリル/紙、色紙	

※No.59-66,217-281 は前期(会期終了)展示

作家解説

高松次郎 TAKAMATSU Jiro

1936(昭和11) - 1998(平成10)年 本名: 高松新八郎

東京市渋谷区(現・東京都渋谷区)生まれ。中学2年生の時にピカソを知り、絵画に関心を抱くようになる。1954年東京藝術大学美術学部油画専攻に入学。1958年同校卒業、この年「第10回読売アンデパンダン展」に参加し、1959年に初個展をひろし画廊にて開催する。1960-64年の間、シルバー編機製造株式会社にてインダストリアルデザイナーとして勤務しながら作家活動を継続。1963年赤瀬川原平、中西夏之とともにハイレッド・センターを結成する。1964年の第8回シェル美術賞で佳作、翌年1等賞を受賞する。1968年「第34回ヴェネチア・ビエンナーレ」に出品しカルロ・カルダツォ賞受賞、1972年「第8回東京国際版画ビエンナーレ」で国際大賞を受賞する。多摩美術大学専任講師、東京藝術大学美術学部油画専攻の非常勤講師を務めたほか、自宅アトリエにて「塾」を主宰するなど後進の育成に努めた。1998年、死去。享年62歳。

田中田鶴子 TANAKA Tazuko

1913(大正2) - 2015(平成27)年

旧・朝鮮仁川(現・大韓民国仁川廣域市)生まれ。少女時代を青島で過ごし、17歳の時に東京へ転居。女子美術大学へ入学するが1学期で退学し、多摩帝国美術学校(現・多摩美術大学)の女子部へ1期生として入学する。1938年「第25回二科展」に入選、翌年「旺社第7回展」にて旺社賞を受賞する。1943年資生堂ギャラリーにて初個展を開催。戦時中は女子美術家奉公隊の活動に参加する。東京大空襲で住まいを焼失。1947年三岸節子を中心に結成された女流画家協会に創立会員として参加し、第1回から出品する。1956年朝日新聞主催の「世界・今日の美術展」、1960年「第3回グッゲンハイム国際美術展」に出品する。1963年所属していた新制作協会、女流画家協会を退会する。1970年跡見学園短期大学(現・跡見学園女子大学)および同学園女子大学の教授に就任する。2015年、死去。享年102歳。